

第6回 都市交通・市街地整備小委員会

議事の概要

(事務局作成)

以下の内容について資料説明後、

- (1) 集約型都市構造の実現に向けて
- (2) 総合的な交通戦略に基づく施策の展開に向けて

討議し概要は、以下のとおり

(概要)

(1) 集約型都市構造の実現に向けて

都市構造を集約型へ誘導するに際して、第一に取り組むことは、都市整備の好事例というメッセージを送り、アナウンスメントすることではないのか。

公共交通機関の整備に伴う利益を地域、利用者等が公共交通の維持に還元できるようなシステムも有効では。

「公」が主体となる交通、「民」へのシフトを意識する市街地整備と整理した場合、市街地整備については、特に「民」へのオリエンテーション、インセンティブが重要。

集約拠点、周辺市街地の整備を打ち出すには、計画体系と事業手法がセットで展開することが重要。

都市交通を考える際、トリップの起点側の議論はよくあるが、終点側の議論が不足する傾向があり、多少のバランスをとる必要があるのでは。

集約型都市構造は、これまで行った鉄道沿線開発のリバイバルとの考えもあるが、単に集積すればいいということではなく、まちのビジョン、スタイルがなければならない。計画と事業を連動させ集中的な取組で誘導することが重要。

公共交通を軸とした拠点的な地域、郊外で縮退する地域のほかに、その中間に位置する地域の視点も必要。

公益性に係る施策を打ち出すには、公平性を確保しつつ地域として共感が持てる施策としなければならない。

(2) 総合的な交通戦略に基づく施策の展開に向けて

これまで地域に係る交通課題の議論にあたっては、関係者がそれぞれの立場を主張し合い、どちらかという生産性が欠けることも多い。多少時間をかけたとしても継続的に協議が可能な仕掛けづくりが必要。

戦略の目標設定にあたっては、量的な拡大を図るという事業等からのアプローチではなく、利用者の視点で利便性がどう変わるかを明示できるよう検討すべき。

戦略策定区域については、市町村区域を基本とする考えのほか、交通利用圏域として比較的広がりをもった考え方も重要である。

施策展開と予算制度をもう少し関連づけて戦略の支援を検討できないか。

公共交通の安全性確保は必然であるとしても、もう少し楽しさ、賑わい等を持てるよう工夫をできる余地を残すべき。

総合的な交通戦略を策定するには、市民の視点から見た機能性の確保、協議会で考えるべき経済合理性といった2つの側面があるが、戦略を論じる以上は重複を取り除きながら、交通の機能性確保が欠かせない。

道路管理、交通規制などについては、それぞれの立場を背負い協議会に参画することになり、協議会として掲げる地域の目標の達成に向けた協力体制のあり方が重要。

施策パッケージという切り口を出した場合、基幹的な公共交通を軸とした施策の展開が組める地域は、比較的容易に戦略をイメージできるが、自動車利を前提とした地域の戦略イメージについては整理が必要。